

大熊町をふるさとにもつ  
私の今の思い（2）

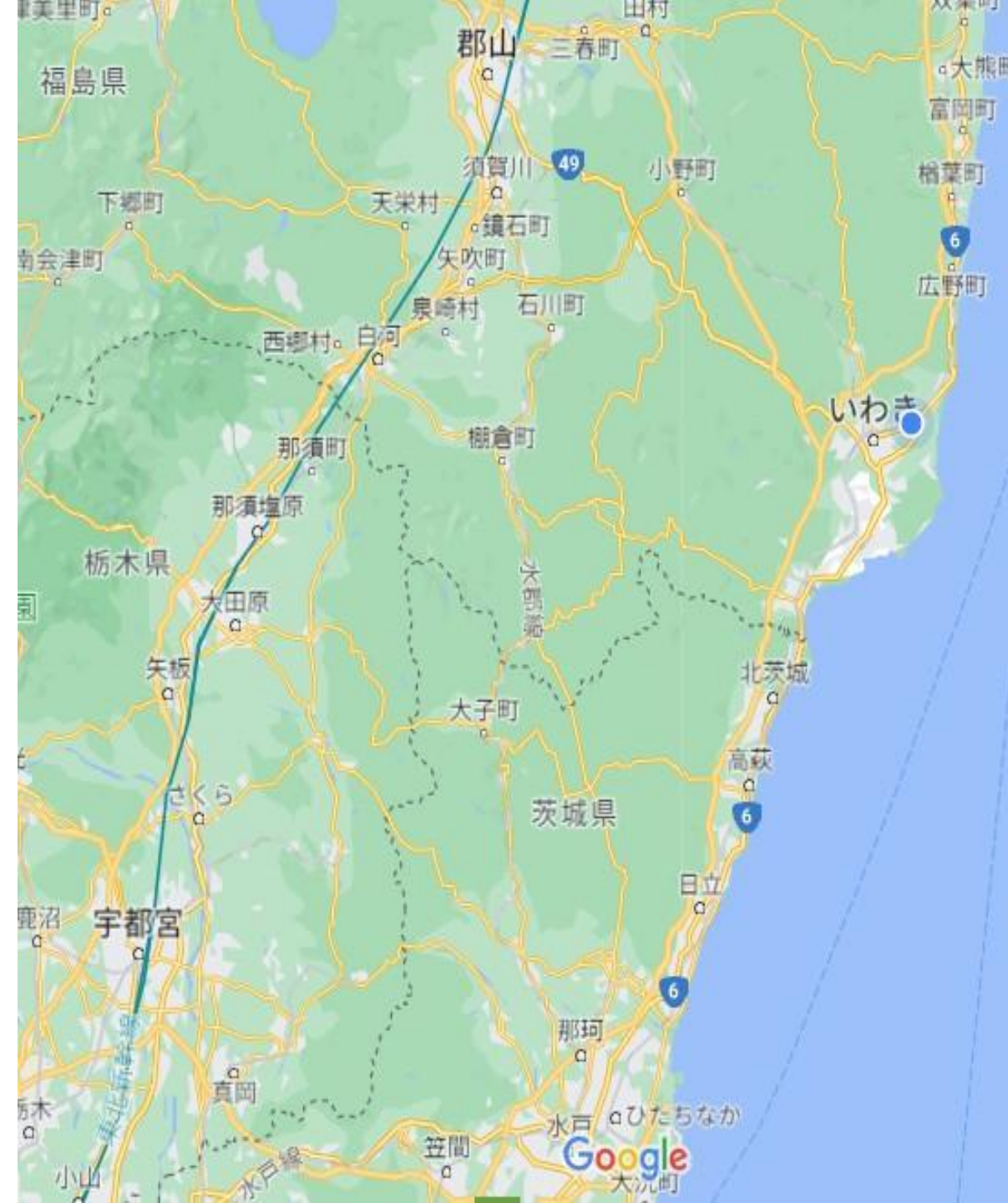
木村純子

2026年5月8日（金）

# 大熊町とは

- 大野村 + 熊町村 (1954 (昭和29)合併)
- 718年 (養老2) 石城国 (いわきのくに)  
(2018=建国1300年)
- 常陸国風土記 (718年前後)  
「久慈の境の助河をもちて道前(みちのくち)  
と為し、陸奥 (みちのおく) の国石城の郡の  
苦麻の村を道後 (みちのしり) となしき。」

苦麻の村 = 現在の大熊町大字熊字熊町  
(日本古典文学大系 2 風土記 岩波書店  
89頁)



# 避難生活

- 大熊町に住んでいた母が、2011年3月から福島市の私の借家に同居。
- 2016年4月、私が定年退職し、母と2人でいわき市に移住。
- 家は、いわき市の叔母夫婦が老人施設に入居し、1年前から空き家。
- 叔母夫婦が私たちに入居を勧めてくれた。
- いわき市に移住して今年で10年
- 母が昨年3月死去。

# 母蓉子（2025年3月逝去96才）（いわき市）



# ● いま

- 孤立状態の留守宅  
原発行動隊の皆様が、ボランティアとして庭の草刈りを続けてくださり、大変ありがたく感謝しています。
- 私は、週1回ほど、家と庭の手入れ。
- 東京電力も年1回、庭の草刈りをしてくれる。
- 庭師を頼んで、樹木の手入れや雨どいの掃除、家の修理。
- 頼りにしていた大工さん（小学校の同級生）も避難先の小野町で急逝。

# 我が家の放射線量：測定結果

(長崎大学・大熊町復興推進拠点)

測定日 2025年7月7日 14時10分 天候 (晴れ)

(宅地除染・解体の状況：未実施)

測定場所	測定値 (マイクロシーベルト/時)		(年間 x 8760時間)
	測定高 1m	5cm	(ミリシーベルト/年)
• 玄関前	1.21	1.13	10.6
• 井戸の横：	1.95	2.88	25.2
• 物置裏の雨樋の前:	1.75	3.75	32.9
• 木小屋の前：	2.05	3.61	31.6
• 西入口バリケードの内側:	1.26	1.22	11.0

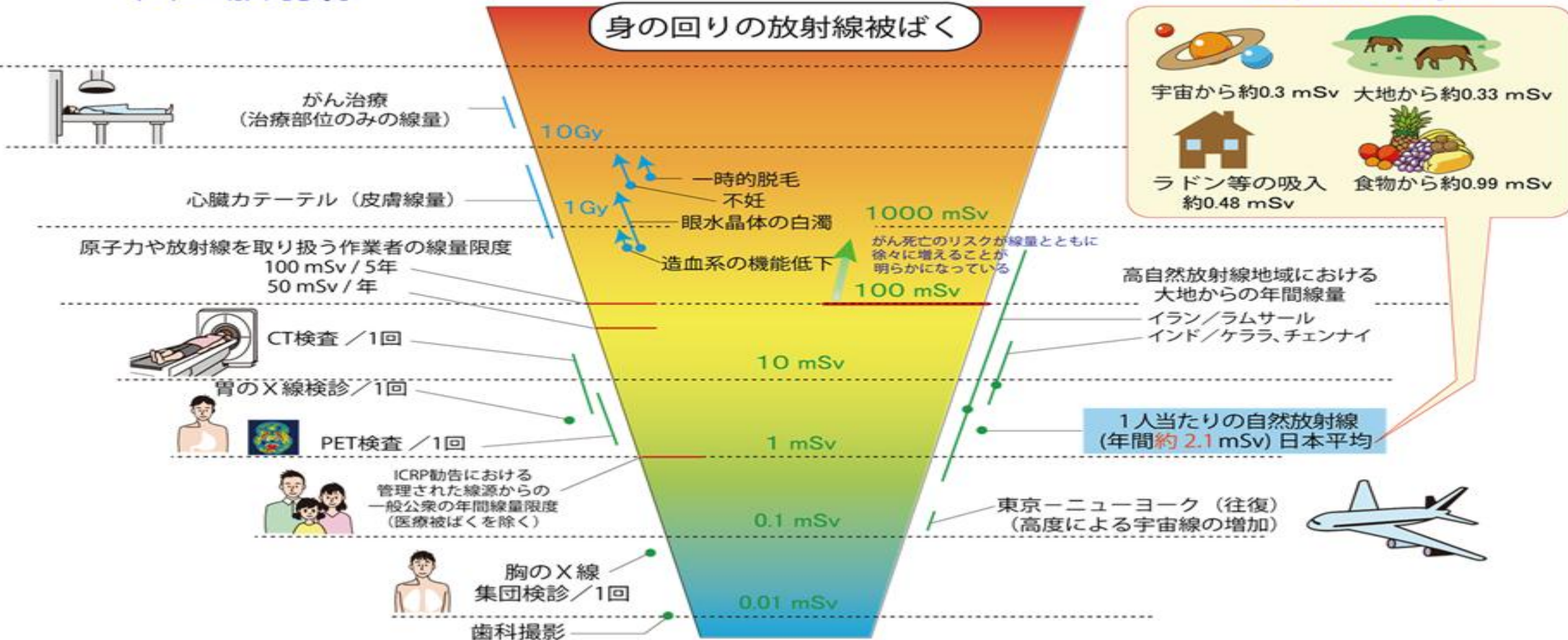
(1000マイクロ=1ミリ) (雨樋前に1年間座れば約33ミリシーベルト被爆)

# 大熊町内空間線量率 空間測定結果

## 人工放射線

## 自然放射線

身の回りの放射線被ばく



出典：  
・国連科学委員会（UNSCEAR）2008年報告書  
・国際放射線防護委員会（ICRP）2007年勧告  
・日本放射線技師会医療被ばくガイドライン  
・新版 生活環境放射線（国民線量の算定）  
等により、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所が作成（2021年5月）

# 自然放射能の高い地域と線量

- イランのラムサール (260ミリシーベルト/年)
- ブラジルのグアラパリ (30～40ミリシーベルト/年)
- インドのケララ地区 (10～15 ミリシーベルト/年)

「自然放射能の高い地域には先祖代々人々が住んでいますが、  
癌が多い、または寿命が短いなどの悪影響は伝えられていません。」

須藤鎮世著「福島へのメッセージ 放射線を恐れなくて！」

幻冬舎ルネッサンス新書 2017、160頁

# •行政に対する要望

- 「復興という名の破壊」をやめてほしい。
- 「解体除染」は、家を解体し、木を伐り、表土をはぎ、庭を更地にする。
- 囲いの高木がなくなると風が強くなる。
- 木陰がなくなると気温が高くなる。
- 植物は光合成で二酸化炭素を吸収し、酸素を供給する。
- 温暖化対策のためにも樹木を保存してほしい。
- 私の家を、除染しないで解除してほしい。



# 除染土について要望

- ◎大熊町と双葉町に中間貯蔵している除染土について。  
30年後までに県外に運ぶ計画は撤回し、今の場所で森林にしてほしい。
- ◎そのままにしておけば、  
30年後は見事な森林になる。
- ◎自然の回復力にまかせれば、  
お金もかからない。
- ◎森林は温暖化を抑止し、環境に良い。



# 結論

- 自宅が帰宅困難区から解除されるのを待つ。
- 2029年解除と聞いている。
- あと3年。